


# アート界のイノベーション①

通番	区分	テーマ	ねらい・概要	スライド	使用教材
	I・II		アート界において、人類がこれまでどのような変革を起こしてきたか、その歴史的な作品と意義を振りかえる		

時間	スライド	ファシリテーション・生徒の活動・留意点など																
10分	<p><b>アート思考</b></p> <p><b>芸術とは何か</b></p> <p>変革を起こしたアート作品を見ていく</p> <p>「芸術界」にイノベーションを起こした作品</p> <p><b>1</b></p> <p><b>本質的な問い</b></p> <p>あなたが考える「芸術」とは、何ですか？</p> <p>まず今、あなたが思っていたり、考えていることを言葉にしてみてください</p>	<p>アート界において、人類がこれまでどのような変革を起こしてきたか、その歴史的な作品と作者の意図、アート界に与えた意義を5回に分けて振りかえり、自分が現在持っている捉え方やイメージについて問う。</p> <p>このあとアート界のイノベーションがどのようにして起きたかについて学んだ後に自分の中にある芸術に対する捉え方の変容について振り返る。</p>																
20分	<p><b>高い壁を乗り越えるため「足場づくりの問い」</b></p> <table border="1"> <tr> <td>経験</td> <td>「〇〇」を実践した体験</td> </tr> <tr> <td>部分</td> <td>「〇〇」を構成するために必要な要素を挙げる</td> </tr> <tr> <td>型</td> <td>「〇〇」に似た言葉、別の表現には何かあるか</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>似た言葉と「〇〇」とは何か違うか</td> </tr> <tr> <td>定義</td> <td>辞書的に「〇〇」とはどういうことか</td> </tr> <tr> <td>活語</td> <td>「〇〇」の活語は</td> </tr> <tr> <td>例:文化</td> <td>他国:他国語で「〇〇」の訳語や捉え方は</td> </tr> <tr> <td>類反:対義</td> <td>「〇〇」の反対語: 逆義の「〇〇」とは</td> </tr> </table> <p><b>問い</b></p> <p>アイパッドのカメラを自分に向けて自画像を描いてみましょう。</p> <p>描き方については自分なりのやり方で自由です (時間4分)</p> <p>チャレンジ「See with naked eye!」</p> <p>・あなたの手を自分なりのやり方で描いてください</p>	経験	「〇〇」を実践した体験	部分	「〇〇」を構成するために必要な要素を挙げる	型	「〇〇」に似た言葉、別の表現には何かあるか	理由	似た言葉と「〇〇」とは何か違うか	定義	辞書的に「〇〇」とはどういうことか	活語	「〇〇」の活語は	例:文化	他国:他国語で「〇〇」の訳語や捉え方は	類反:対義	「〇〇」の反対語: 逆義の「〇〇」とは	<p>本質的な問いとして、生徒一人一人に対して「芸術とは何か」について現時点で抱いているイメージや捉え方について問う。</p> <p>「本質的な問い」に対して考えを進めるといって「高い壁」を乗り越えるために「足場づくりとなる問い」を立ててアプローチする。</p>
経験	「〇〇」を実践した体験																	
部分	「〇〇」を構成するために必要な要素を挙げる																	
型	「〇〇」に似た言葉、別の表現には何かあるか																	
理由	似た言葉と「〇〇」とは何か違うか																	
定義	辞書的に「〇〇」とはどういうことか																	
活語	「〇〇」の活語は																	
例:文化	他国:他国語で「〇〇」の訳語や捉え方は																	
類反:対義	「〇〇」の反対語: 逆義の「〇〇」とは																	
30分	<p><b>問い</b></p> <p>1 グループの自画像を見て、あなたが最も素晴らしいと思うものを一選選んでください。</p> <p>2 なぜそれが素晴らしいと感じたのかその説明を提出欄に入れてください。</p> <p>「手」のスケッチ (生徒の作成例)</p> 	<p>ワークの課題としてアイパッドのカメラを活用して「自画像」を描く</p> <p>アイパッドが使えない場合や授業時間があまり取れない時は、自分の手を描くことに変更しても良い。</p> <p><b>グループ活動</b></p> <p>お互いに作品を鑑賞し、どの作品が最も素晴らしいと思うか、またなぜその作品を素晴らしいと感じたのか、理由を考える。</p> <p>実際に授業を展開してみると、写実的な描いた作品を「良い」と評価する生徒が多かった</p>																

「手」のスケッチ(生徒の作成例)



チャレンジ「See with naked eye!」



チャレンジ「See with naked eye!」

「絵」と「解説の文章」、どちらに重きを置いて見ましたか?

「絵」の中に作業がいたのですが、見えなかったか?  
→ 年齢差や、見えていたものが見えなくなる、体が動くほろもろに柔軟性が認められる。

チャレンジ「See with naked eye!」

「サイコロ」をできるだけリアルに描いてください

チャレンジ「See with naked eye!」



アウトプット配属  
感じたこと・気がついたことを多く書き出してほしい

「問い」を作る

問い

・アンリ・マティスが1905年に発表した「緑のすじのあるマティス夫人の肖像」

縦40cm、横32cm小型の作品

・この絵が「20世紀の絵」を切り開いた絵

→なぜか?

ヒント

- 1 この絵が発表される前はどんな絵が描かれていたか
- 2 現在(いる)の職業を参考に考える  
「人工知能が活躍すると人間の仕事が奪われる」「○○が活躍すると従来職の仕事が奪われる」
- 3 何が「素晴らしい絵」の基準になっていたか

マティス以前に描かれていた絵



「ルネサンス画家」と「20世紀アーティスト」の違い



マティスの絵が変えたもの

これまで  
・目に映るとありに描かれた絵 → アートの正解

これ以降  
・アートにしかできないこと → 写実の解放

常識を破る=イノベーション



当時の批評  
写実の束縛を解いた  
「色」の解放  
感じるままに  
アートにしかできないこと  
一つの革命

生徒の作品の例

このような作品を提出する生徒がいた。これまでの常識的な枠組みの中では、評価されないかもしれないが、これを「既存の枠を破る」「面白い」「楽しい」という理由で評価する生徒が多かった。

ある作品を鑑賞させる  
感じたことを自由に話し合わせる

絵に文章が付けられている場合、絵そのものよりも、文章を読んで情報を得ようとする人が多いことについて考える。自分の感覚よりも他からどのように見られているのかが気になってしまう

(追加のワーク)  
サイコロを描く場合、何に留意して描くか?  
リアルさの追求

マティスの「緑のすじのあるマティス夫人の肖像」を題材に、感じるままに「自分の問い」をなるべく多く捻り出す

この絵が、「20世紀の絵を切り開いた絵」とされている  
なぜなのか? グループで考えてみる。

アイデアが出ない場合、一人で苦しんだ後に、なんとか仲間で知恵を出し合いとにかく具体的な案を出すことを経験する。知的忍耐力  
一定時間考えた後に、ヒントとして、当時の時代背景について考えてみる

参考として、当時描かれていた絵を見せる

当時は文字を読むことができる人が少なかったという時代背景の中で、キリスト教を広めるために貴族が絵描きに描かせた絵  
絵描きが本当に描きたい絵ではなかった  
求められるのは写実性

このような時代背景の中でマティスはどのような意図でこの作品を描き、そしてこの絵は当時どのように思われたと推測するか?

「アートにしかできないこと」  
常識を破るイノベーションであった  
このような観点でもう一度マティスの絵を鑑賞する

45分

50分

--	--	--